



都内では珍しい『サツマイモの花』が開花！

と き	8月10日(木)撮影	と ころ	土支田3-7-5
-----	------------	------	----------

10日、関口 守朗（せきぐちもりお：79歳）さんの畑で、サツマイモの花が開花した。開花には、気温や養分、日照時間など、さまざまな条件を満たす必要があるため、熱帯や亜熱帯地域で咲くことはあっても、東京で咲くことは珍しいという。

関口さんの畑で今年開花したのは、サツマイモのシルクスweetという品種の花で濃い紫色の花びらが緑の葉の間から顔をのぞかせていた。極めて珍しく、咲いているのは近隣でも関口さんの畑だけという。必ず咲くとは限らないため、開花のたびに近隣住民をはじめ区外からも見物人が訪れる。

サツマイモの花はヒルガオ科に属していて、アサガオに非常によく似た性質を持つ。午前中いっぱいが見ごろだが、天候によっては昼過ぎまで見られる。夕方には散ってしまう。



▲サツマイモの花▼



【サツマイモの花が開花した畑について】

約 2,700 m²ある大きな畑のうち、約 1,000 m²の畑でサツマイモが栽培されており、その中でサツマイモの花が、顔をのぞかせていた。

最初にサツマイモの花を発見したのは平成 15 年のこと。次に平成 20 年、21 年と続き、23 年以降は毎年咲かせている。7月26日に咲き始めているのを発見したようだ。

関口さんは「今年は、栽培する品種を変えたので、同じサツマイモでも咲かないと思っていたが、見事に咲いてくれた。つぼみも多く見られ、これから開花の真っ盛りになるのではないかと。こういった条件で咲くのかはわからないが、かわいい紫色の花が咲くのは嬉しいこと。」と微笑みながら、花を見ていた。



サツマイモの花は、開花のたびに近所でも話題となり、区内の近隣住民をはじめ、埼玉などの近隣の県からも珍しがって人が訪れている。サツマイモの収穫できる10月ごろまで花は見られるが「一番きれいに咲くのは今の時期」とのこと。なお、これらのサツマイモは市場には出荷せず、畑で直接販売するほか、近隣の幼稚園児が10月ごろに収穫する予定。

【サツマイモの花】

サツマイモはヒルガオ科に属し、その花はアサガオの花によく似ており、花びらは白く、中心部分は紫色。また、短日植物であるため、昼間の長さが短くなって11時間以下になると開花する。熱帯や亜熱帯ではよく開花するが、北緯30度以上の地域での開花は非常に珍しいといわれている。

花言葉は、『乙女の純情』。